

新技術 解説

ウコンノメイガの捕獲効率が高い コーン型フェロモントラップ

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構
植物防疫研究部門

しぶや かずき えんどう のぶゆき
渋谷 和樹・遠藤 信幸

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構
中日本農業研究センター

たけ うち ひろ あき
竹 内 博 昭

はじめに

ウコンノメイガ *Pleuroptya ruralis* (Scopoli) (図-1) はチョウ目、ツトガ科に属する夜行性の蛾で、主に北陸、東北地方におけるダイズの害虫として知られている(三田村・松木, 2012; 中村ら, 2008; 西土ら, 2003; 横田, 2011)。越冬世代成虫が7月にダイズ畑へ飛来し、次世代の幼虫が図-2のような葉巻を作り、その中で葉を摂食する(成瀬・新田, 1985)。葉への加害が著しいと子実が小粒化し、減収につながる(樋口, 2005)。そのほかの詳細な生態については渋谷・竹内(2020)を参照していただきたい。

I 発生予察の現状とその課題

いくつかの県では圃場内の葉巻数をもとに本種の防除基準が設定されており、例えば新潟県では7月第6半旬の葉巻数が畝1m当たり24個以上、富山県ではダイズ

1本当たり6個以上で防除が必要としている(新潟県農林水産部, 2023; 富山県農林水産部, 2023)。しかし、この方法では防除適期(7月下旬~8月上旬)までの時間的余裕が少なく、また圃場内の葉巻を数える労力も大きい。そのため、より早い時期に、かつ簡単に実施できる発生予察技術が求められている。

本種の卵密度や幼虫発生量はダイズ圃場に飛来した成虫の数によって決定される(成瀬, 2000; 2002)ことから、飛来成虫数を調査することで葉巻数を推測できる可能性がある。しかし本種はライトトラップへの誘殺数が少ないため(成瀬・新田, 1985)、予察灯を用いた調査は困難である。そのため、これまでの調査では、ダイズ畑を歩きながらダイズ草冠を棒で叩き、飛び出してきた成虫を目視で数える方法(叩き出し法)が用いられてきた(成瀬・新田, 1985)。これは圃場内の成虫数を直接カウントしているため精度は高いが、労力がかかり、作業がネックである。



図-1 ウコンノメイガ雌成虫

Pheromone-baited Cone Trap with High Efficiency in Capturing the Bean Webworm, *Pleuroptya ruralis* (Scopoli). By Kazuki SHIBUYA, Nobuyuki ENDO and Hiroaki TAKEUCHI

(キーワード: ダイズ, ウコンノメイガ, フェロモントラップ, 発生予察, コーン型トラップ)



図-2 ダイズに作られた葉巻